

山口市芸術家育成支援事業  
第9回やまぐち新進アーティスト大賞  
ノミネート作品展

山口市には文化を大切にする気風があり、創造的な芸術活動が身近な暮らしや、まちのなかに息づいています。山口市芸術家育成支援事業は、将来一層の活躍が期待される本市のアーティストに賞を贈ることで、創作活動を奨励し、また、発表機会の提供を行うことにより、アーティストの育成を図るとともに、地元のアーティストを地域や住民が支える仕組みづくりを目指すものです。

このたび、やまぐち新進アーティスト大賞審査委員会により最終選考にノミネートされたアーティストを、その作品とともに紹介いたします。

応募アーティスト数：15名

最終選考ノミネートアーティスト：10名

おおた けい  
大田 慶

しらいし えつこ  
白石 悦子

しらべ きみこ  
調 喜美子

すすき けいじろう  
鈴木 啓二郎

たかはし もとすけ  
高橋 基介

テラダ サチコ

むかいだ みほ  
向田 美保

やまと けいた  
大和 佳太

よしむら たいせい  
吉村 大星

よろずあーと  
YorozuArt

(50音順・敬称略)

第9回やまぐち新進アーティスト大賞審査委員

足立明男（山口情報芸術センター館長） 石崎泰之（山口県立萩美術館・浦上記念館学芸専門監）  
兼原啓二（山口短期大学教授） 斎藤郁夫（山口県立美術館副館長）  
水谷由美子（山口県立大学国際文化学部長） 大和保男（陶芸家）

(50音順・敬称略)

	心りがな アーティスト名	おおた けい <b>大田 慶</b>		
	年齢	22	創作活動の拠点	平川
	芸術家として 目指す方向性	自然の美的資源に目を向けた写真作品の製作を今後も続けていきます。2017年4月1日から写真教室を実家の写真スタジオ及び屋外にて開催します。2017年3月にそれに向けた広報と準備に取り組みます。山口市を拠点に写真や絵画といった自作品の純度を高める他、人脈を築き、2017年に最初の個展を開催し、自らの活動を紹介します。創造的ワークショップについては、今後も山口県内を中心として不定期で行いますが、2018年には子どもたちを対象としたアート教室という形で社会に関わっていききたいです。自然写真家としての活動をおこないますが、2017年にはPhotoshopなど最先端のソフトに関する技術を高めた上で、世界の同時代の写真家からインスピレーションを受け、技術を盗み、未来の写真あるいはプロフェッショナルな画像表現を模索していききたいです。こうした活動や作品の製作・発表を通して、山口のアートを盛り上げる手伝いをしていきたいです。		

### 虹と雫

子どもたちは日々世界を探検し、様々なものに心を動かし、時に自ら心を動かすものを作り出します。それは「遊び」という名前が一番ふさわしいものだと思いますが、「けんけんぱ」が何も無い地面をアスレチックに変えるように、その創造的な生産性は無視できません。この作品は庭で子どもたちがホースの水で虹を描いていた時に撮影したものです。何も無い庭に虹を作り出せるなんて、私たち人間はどんなに素晴らしい力を与えられているのでしょうか。



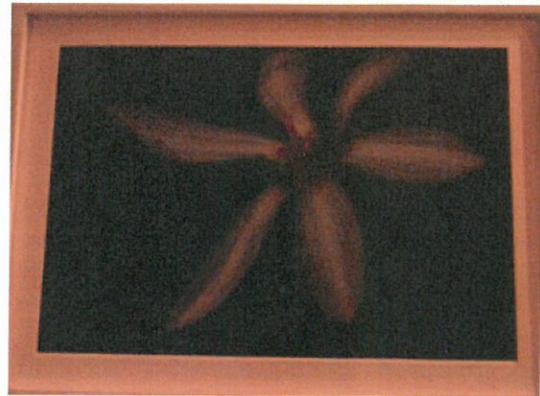
### 路傍の花

日頃意識を向けていない所に思わぬ出逢いをする事があります。この作品は道の外れの樹の下に咲いていた花を写したものです。「路傍の人」という言葉がありますが、この花はまさにその様でありました。私はなぜこの花に気づけたのでしょうか。それは静かな光の反射で私の心を捉えました。この花にレンズを向けた私の心は、その花のオーラのようなものを知らず知らず感じていたに違いありません。この花は既に枯れましたが、額縁の中で心を捉え続ける事でしょう。



### 秋の友

コスモスの咲く川沿いを、カメラを提げて歩く事は、私の秋の日課のようになりました。多くのプリントがその景色の断片から生まれました。秋に独り歩いていると、ふとした一瞬の感動と、その残香のような記憶が、まるで友人のような柔らかな感動をもって現れ、私と共に歩いてくれます。私はそれを「秋の友」と呼んでいます。この白い蝶もまた、秋の友を見つけ、その時を共にしていたような、そんな気がしました。



	ふりがな アーティスト名	しろいし えつこ 白石 悦子		
	年齢	35	創作活動の拠点	阿東
	芸術家として 目指す方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年365日、毎日欠かさずに絵を描くこと</li> <li>・表現を豊かにするため、技術を磨くこと</li> <li>・カチコチの頭をちよつとづつ柔らかくすること</li> </ul>		

### 窓のむこうの物語 —左の窓枠—

山羊頭 Goat Head

つむじ風の嘆きを聞いた山羊頭は、思いもよらぬ長い散歩に出かける羽目になる。

王冠会議 Crowns Assembly

難題を解決すべく夜明けに集まらん。忌々しき事態じゃ。火急に我らの使命を果たさなければならぬ。

ママドゥコ Mamaduko

“ママドゥコ(ふたりのmama乗り物duko)”を操る村人は、雲に突き刺さる赤いハシゴには目もくれない。

### 窓のむこうの物語 —右の窓枠—

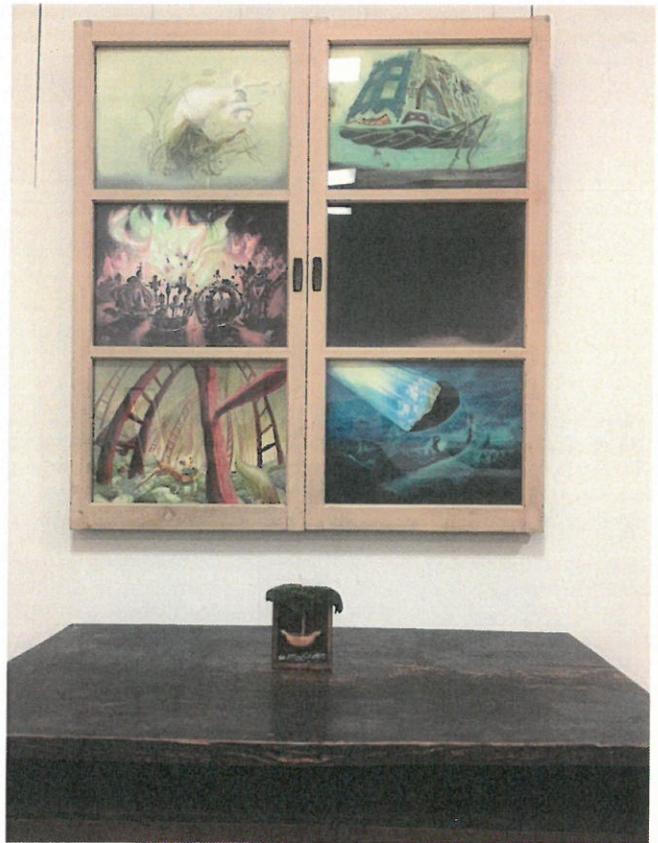
窓虫 Windows Eaters

気に入った窓を片っ端から吸い取り、蒐集する。そういった生き物よ窓虫とは…困ったことよのう。

窓のない家 The House without Windows  
想像してみたまえ、窓が奪い取られた家を、黒く穿たれた闇を。嘆かわしきかな、生きものの気配がまったく感じとられないのだ。

ネッカーの卵 Necker Egg

孤海に在りし異形の島。鳥とも卵とも言えぬ禍々しき姿。其の胎には穏やかなる田園を孕む。



### 窓のむこうの物語 —丸木舟—

…よって、陸を行く底の抜けた丸木舟は、乗手手の同調具合が最重要視される。この特徴ある丸木舟を使うのは、マ族・ママ族・マンマ族の3部族。丸木舟はそれぞれ、マドゥコ(ひとりの乗り物)、ママドゥコ(ふたりの乗り物)、マンマドゥコ(みんなの乗り物)と呼ばれる。各部族とも、船底の穴を塞ぐために用いた詰めもの「根のない木」の神話を信仰の対象とする。

※根のない木: 丸木舟とは異なった種類の木。現存せず。



	ふりがな アーティスト名	しらべ きみこ 調 喜美子		
	年齢	59	創作活動の拠点	大殿
	芸術家として 目指す方向性	山口の伝統を取り入れつつ、女性らしい独自の世界を切り開いていきたいと思っています。		

### 花籠「朝顔」

素材 竹、籐

山口の屋敷の格子戸にひかれ、落ち着いた佇まいを意識した作品です。  
朝顔のつるが、からんでのぼっている様子を表現しました。





ふりがな  
アーティスト名

すずき けいじろう  
鈴木 啓二郎

年齢

35

創作活動の拠点

湯田

芸術家として  
目指す方向性

2010年ごろから、山口県に出入りをするようになり、2014年ごろから山口市内へ引っ越し数年が経ちました。これまで山口県内では、基本的には企画側で芸術関係の活動に携わってきました。秋吉台国際芸術村、山口現代芸術研究所(YICA)、山口大学教育学部美術教育教室など、現代芸術を積極的に育ててきた方々や団体と関わり、それらを通して、山口県の地域資源、環境資源、文化資源を探求する機縁に恵まれました。その探求により、山口県の魅力的な資源に触れ、より一層、理解を深め、地域特有の資源を取り上げ、普遍的な審美感をより一層探求していきたいと考えています。この機会を元に、さらなる飛躍ができればと考えております。

## 難破したアルゴ船座の欠片…

すでになくなってしまった幻の星座がありました。アルゴ船座という星座で18世紀中頃に、西洋の科学的な編纂の時期に、4つの星座へと分割されて、無くなってしまった星座です。現在では、竜骨座、船尾座、帆座、そして、コンパス座として、認知されるものです。本作品では、その幻のアルゴ船が地球に難破したという私的なお話でもあります。この星座を構成していた約28の星々が、地球に舞い降りたという設定で、それぞれの欠片には、それぞれの星の位置を示すときに使われる『時、分、秒』が刻まれています。また、夜空を見上げると星は、光り輝、実際にはその形を肉眼で見ることができませんが、それぞれの星にはいろいろな形があります。ここで展示されている欠片は様々な抽象的な形ばかりのもので、石けん粘土で制作されています。石けんに特定の形が定められていないように、これらの星の形も不確かな形として表現しています。幻の星座のように、消えてなくなってしまう儚さも共通要素として、この素材を使用しました。



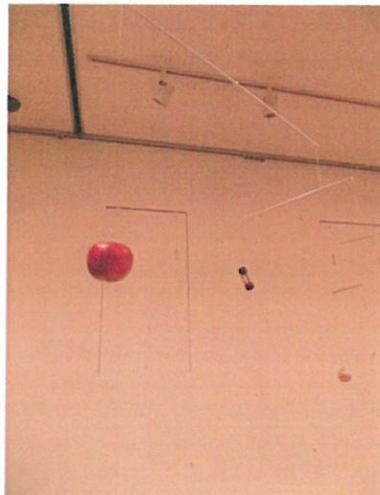
## Water Color: Landscape (水彩画: 風景)

山口県内にはたくさんの湧き水があることをしり、そのうちの7種類の湧き水(大内銘水、平家の泉、柳の水、水出の泉、半田弁天湧泉、別府弁天池湧水、熊野のご神水)を採取し作成した水彩画です。それぞれの湧き水は、雨が地上に降り注ぎ、それぞれの特徴的な自然環境によって、味や成分などが違ってきます。水自体が山や植物や生態系などの自然環境を象徴するものという点に焦点を当てました。それぞれ描かれている点は、それぞれの湧き水にほぼ同量の水彩絵の具を溶かし、それぞれを一滴ずつ垂らして制作したものです。絵の具の溶けた様子が微妙に違う点から、水や自然環境を想像していただけたらと考え、『Water Color: Landscape』(水彩画: 風景)というように、水で彩られた風景画を象徴的に表現した作品です。



## 意識のバランス

本作品は、日常生活で収集してきたオブジェをモビールに吊り下げて制作した作品です。私の興味のままに収集したオブジェの幾つかを吊り下げていて、それぞれに個人的な物語があります。それぞれのオブジェは、りんご、3Dプリンターで復元した秋穂の石のプラスチック彫刻、燃焼テスト用の萩焼、フリーメイソンのワインコルク、パリで行われていた展覧会でいただいた蒸留水、砂時計です。有機物や無機物の組み合わせによってできるバランスや、それぞれのオブジェの関係性などから想起される事象などを想像していただくと興味深く鑑賞いただけると思います。また、それぞれの持つレファレンス、意味、神話などを鑑賞者の方に自由に想起していただくと空間や創造の広がりを体験していただけたらと思います。



	ふりがな アーティスト名	たかはし もとすけ 高橋 基介		
	年齢	30	創作活動の拠点	大内
	芸術家として 目指す方向性	山口市内で制作を続け、装身具、アクセサリーを通して伝統が日常に親しまれるきっかけ作りに助力したいと考えております。教育機関等から、講義のお申度もいただき、「知る機会」に携わる場を特に大切にしていきたいと考えております。		

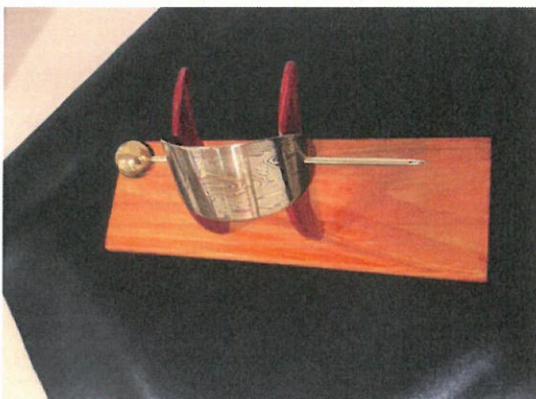


もくめがねたまかざりかんざし  
木目金玉飾簪

テーマ「流れと調和」

30層からなる木目金を制作し、繊細な髪の流れとの一体感が生まれるよう、繊細、かつ大胆に木目模様を彫り込みました。

人と自然との「調和を身に付ける」感覚、日本人の持つ「粋」をこの簪に込めています。



	ふりがな アーティスト名	てらだ さちこ テラダ サチコ		
	年齢	31	創作活動の拠点	白石
	芸術家として 目指す方向性	仕事を続けながら、質の高い作品を創り続け、発表の場を広げていきたい。 アートを楽しむ術や参加の仕方を、活動を通して周りに知ってもらいたい。		

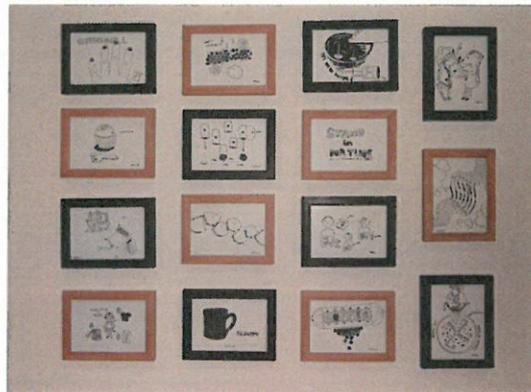
「why knot?」～ダイニングバーのためのイラスト群～

お店を実際に利用して、特に深夜の時間帯に来られる常連さんと店主とのフランクな関係性を思わせる会話の数々から、人々の個性(カラー)がにじみ出ているのを感じました。いろいろな人が集まるその空間に飾られることをイメージして描いた、「色」をテーマとした6枚の組作品です。



「COFFEE GIRL」～コーヒーショップのためのイラスト群

リピーターのお客さんも多い、まちのコーヒーショップ。いつもの場所でいつものコーヒーを飲んでいても、ふと目に入る風景画いつもと少し違って見えるように。お店へのヒアリングから得た(自分にとって)新しいコーヒーの知識や、私が実際に店舗を利用してインスパイアされたことをもとに描いた15点の組作品です。



虹器Ⅱ -NIJIKI-

きっかけは1本の傘との出会いと、1枚のイメージスケッチから。もし、雨をよけるための傘が、光を集めて虹を作る道具だったら。ホースで水を撒くように、虹を作り出せたら楽しい、という願望から生まれた立体作品です。



	ふりがな アーティスト名	むかいだ みほ 向田 美保		
	年齢	26	創作活動の拠点	平川
	芸術家として 目指す方向性	市内で創作活動を続けながら、チャンスがあれば東京や海外にも進出し活動の場をひろげたい。 芸術を通して人の心に希望や癒しを届ける活動がしたい。 この世界の素晴らしさを写真を通して多くの人に知ってもらいたい。 写真を通して医療や福祉に関わりたい。 将来の夢は、病院や福祉に隣接した美術館を建設することです。		

### 沈黙と静寂(哲学の樹)

あまり天気のよくなかったあの日、1本の木が力強く立っていました。それはまるでどんな環境にも負けず倒れず踏んばっている一人の人間のように見えました。この作品が沢山の人の勇気や元気を与える希望の作品となることを祈っています。



### 1/fのゆらぎ

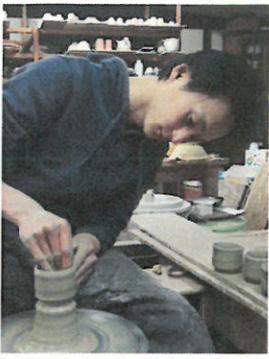
イルミネーションの中でキラキラ輝く川を見ました。ここは一ノ坂川の風景です。そこには、紫色をしたきれいなみずみずしい川が流れていました。流れゆくその水は、自然が作りだした宝石の塊のようでした。みんなが持っている一人一人の宝の原石(個性)を象徴した作品です。



### 彷徨と言う名の光

この写真を撮った時、私は楽しくて楽しくて仕方ありませんでした。躍るように軽快に咲いた紫陽花が私の方を向いて微笑んでいました。飾らずにありのままをだして素直に今を楽しんでいるようなその姿は私に安らぎと安心感を与えてくれました。この作品を見た多くの人に温かい光が届きますように。



	ふりがな アーティスト名	やまと けいた 大和 佳太		
	年齢	31	創作活動の拠点	宮野
	芸術家として 目指す方向性	今までグループ展や個展での作品発表がおもでしたが、大作を作って公募展にも挑戦していきたいと思っています。 また時代、生活にあった作品などを通じて伝統的な焼物の良さも伝えていけたら幸いです。		

くりぬきはいかぶりはないれ  
削貫灰被花入

岩の様な造形に花や木を活けることで、自然の力強さを表現  
自分で作ったワラ灰、木灰と萩焼の大道土を使用。登り窯で1280℃で焼成



たまねぎ少女

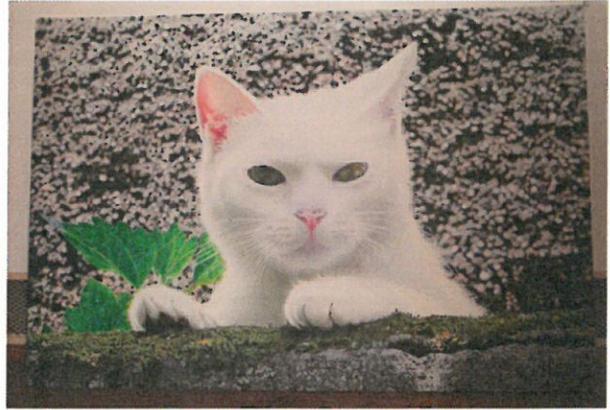
知人の女性をモデルに作成。萩焼の土の色を活かして人の肌の色を表現。伝統的な萩焼の色に若い人にも親んでもらえたらと思っています。  
だんご髪の所をはずして花入としても使えます。壁に掛けられるタイプなど色々あります。



	ふりがな アーティスト名	よしむら たいせい 吉村 大星		
	年齢	24	創作活動の拠点	徳地
	芸術家として 目指す方向性	猫だけにこだわらず、立体作品にも挑戦してみたい。そして、これからもアートを学び自分に正直な気持ちが伝わる作品を制作し続けたいと思います。		

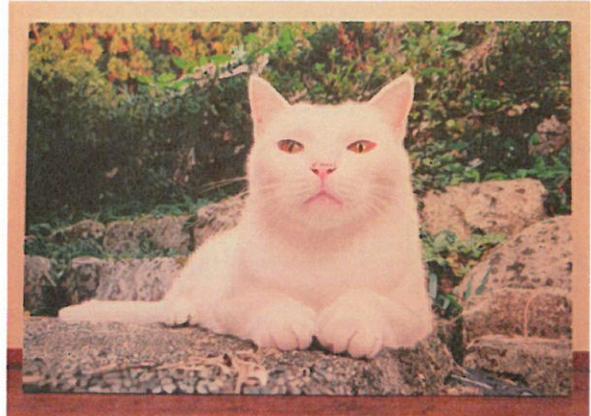
### チロクマ

3点とも同じ猫です。名前はチロ、メス、推定年齢1才。しつこく撮影していると一瞬イヤな顔をした、それが自分にとっておもしろいと感じました。



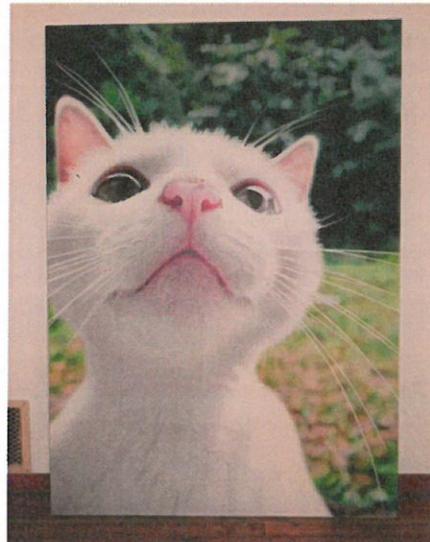
### ポジティブ

子育ても一段落して母猫としての余裕の表情。チロを描くことで自分自身がポジティブになっていきました。



### リハビリ

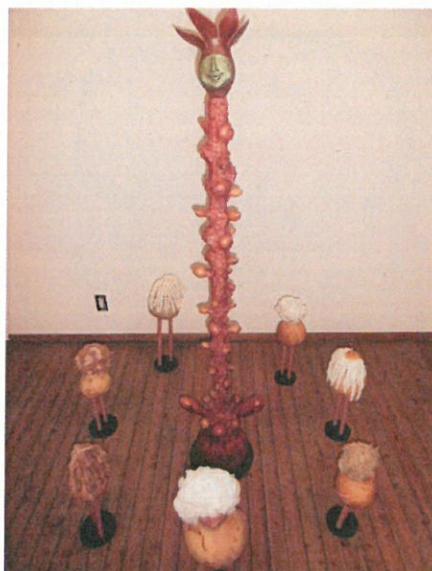
出産直後でお腹を空かせて僕の所までやってきた。この作品は自分にとってもリハビリになりました。



	ふりがな アーティスト名	よろずあーと YorozuArt		
	年齢	40	創作活動の拠点	宮野
	芸術家として 目指す方向性	自然豊かな山口で作品で使う材料を栽培することから作品を 生み出し、農業とアート、自然とアートを繋げていくことができるよう に活動を続け、山口から外へ発信していきたい。		

### 希望

中心のシンボルは天高くそびえ立つ  
 希望の光をイメージしました。  
 その下でシンボルを囲む人々は、人  
 と人との繋がりの中で希望が生まれ  
 ることを表現しました。



### 明るい人

中心の人物は明るいポジティブなエ  
 ネルギーを発しているのを表現し、そ  
 れに吸い寄せられるように人々が集  
 まりエネルギーが増していくことを表  
 現しました。

